

防災教育学会フィールドワーク

『地域住民の地域住民による地域住民のための防災活動について考える』

2024 年 6 月 15 日(土)に防災教育学会が「防災教育学会フィールドワーク『地域住民の地域住民による地域住民のための防災活動について考える』」が実施され、コーディネーターとして、こども教育学科 光成学科長と、こども教育学科講師 田中先生、社会連携チーム 戸谷チーム長が参加しました。

フィールドワークでは、新長田に残る阪神・淡路大震災の記録や復興のシンボルを見学し、地域住民がどのような思い、願いをもって 30 年を歩んできたのかについて、参加者と共に学びを深めました。

神戸常盤大学は、神戸市長田区にある唯一の大学として、これからも教育と医療の両面から、地域の防災力の向上、地域社会に貢献する人材の育成に取り組んでまいります。

参加者の感想

🌸「人の想いから来る行いがメインだった阪神・淡路大震災。その後いろいろなことが役割分担として可視化された形になり、忘れてしまったことが沢山あるのではないかと思いますしながらお話を聴きました。」

🌸「これまで経験者のいろいろなお話を聴く機会がありましたが、中には推測からくる話もあったような気がします。現地で経験されたひとりでも多くの方にお話をお聴きすることの大切さを教えていただきました。」



震災 WALL GALLERY の見学



大正筋商店街(震災復興の現状)の見学



鉄人広場にて「1.17 希望の灯り」についての解説



地域住民による震災当時についての語り